

30th KAMO IWA KURA



2026
10/10 SAT
土

雲南市加茂文化ホール

ラメール
ふれあいホール

13:00 - 16:30

12:30 開場

1996

1996(平成8)年10月14日過去最多の
39個の銅鐸が出土し、全国に大きな
反響を与えました。

それから30年。大量銅鐸出土に
関わってきた研究者たちが当時の
感動やその意義を改めて振り返り
ながら語ります。

13:00 開会

13:10 講演1

「加茂岩倉銅鐸の
発見とその意義」

北島大輔氏(山口市教育委員会)

13:50 講演2

「鑄造技術からみた
加茂岩倉銅鐸」

清水邦彦氏(島根大学)

14:30 休憩

14:40 報告1

「加茂岩倉銅鐸と
弥生のまつり」

東森 晋氏(島根県教育庁)

15:05 報告2

「加茂岩倉遺跡と
荒神谷遺跡」

突道年弘氏(荒神谷博物館)

15:30 休憩

15:40

パネルディスカッション

コーディネーター

角田徳幸(雲南市教育委員会)

16:30 閉会

主催 雲南市・雲南市教育委員会、一般社団法人自治総合センター

後援 島根県教育委員会、

弥生ブロンズネットワーク(島根県立古代出雲歴史博物館、出雲弥生の森博物館、荒神谷博物館)

お問合せ 雲南市教育委員会文化財課 TEL:0854-40-1075

加茂岩倉遺跡
銅鐸出土
三〇周年記念
シンポジウム

加茂岩倉遺跡

銅鐸出土

三〇周年記念

シンポジウム



北島 大輔

山口市教育委員会



清水 邦彦

島根大学



東森 晋

島根県教育庁



穴道 年弘

荒神谷博物館

青銅器や土器からみた弥生時代～古墳出現期の地域間交流が研究テーマ。明治大学大学院在籍中の1996年、雲南市(旧加茂町)の加茂岩倉遺跡で大量の銅鐸が発見され、発掘調査や銅鐸の実測調査に参加した。現在は山口市教育委員会に勤務し、平安時代の銭貨鑄造遺跡である史跡周防鑄銭司跡などの文化財調査に携わる。

弥生時代の青銅器生産が研究テーマ。学生時代は古墳を研究していたが、茨木市(大阪府)に転職して弥生時代の銅鐸生産で著名な東奈良遺跡と出会う。当初は「仕事」だったが、2017年に執筆した論文をきっかけに本格的に青銅器生産研究へ転向。2024年に島根大学に着任、法文学部で進めている青銅器の学際的共同研究に携わる。

山陰の弥生時代集落が研究テーマ。1996年に島根県に入庁し、県内遺跡の発掘調査に従事。2021～2023年には、島根県古代文化センターのテーマ研究「島根県域における弥生社会の総合的研究」を担当した。現在は島根県教育庁文化財課に勤務し、松江市の「八雲立つ風土記の丘」地内遺跡の調査や整備事業に携わる。

長年、斐川町教育委員会や合併後の出雲市文化財課で文化財保護行政に携わる。1980年に雲南市加茂町の神原正面北遺跡の発掘調査に参加、85年には荒神谷遺跡の銅鐸・銅矛の発掘調査や報告書作成に関わった。2018年に退職し、現在は荒神谷博物館で展示普及につとめる。

会場

雲南市加茂文化ホール

ラメール ふれあいホール

島根県雲南市加茂町宇治303 TEL.0854-49-8500

ACCESS

[関西・山陽・九州からお車で]

(中国道経由) 一三次東IC・JCTより松江道一三刀屋木次IC または 加茂岩倉SIC ー 国道54号 ー ラメール

(山陽道経由) 一尾道北ICより尾道道一松江道一三刀屋木次IC または 加茂岩倉SIC ー 国道54号 ー ラメール

[松江・出雲方面からお車で] (山陰道経由) 穴道IC ー 国道54号 ー ラメール

